

平成17年度体育専門学群における授業評価結果と今後の課題

近藤良享・長谷川悦示

1. はじめに

平成17年6月17日、林副学長から、「学生による専門科目の授業評価について」と題する依頼文が教員各位に届いた。それによると、「大学間の競争的環境が厳しくなり、また、大学全入時代を迎える中で、各大学は教育の質的向上に真剣に取り組んでおり、本学にとっても、授業評価とそれに基づく授業改善は急務となっている」との現状認識から、筑波大学の中期目標・中期計画に従い、FD(授業評価を含む)を実施することを求め、全学の共通科目以外の専門科目・専門基礎科目については、各教育組織で実施するように要望している。

このような授業評価を含むFDの実施は、今や日本中の大学が生き残りをかけて取り組んでおり、体育専門学群においても、ここ2、3年、授業の質的向上を目指したFD方策が検討されていた。

こうした中、平成17年度は以下のような経緯をたどり、体育専門学群としては開学以来初めての授業評価を実施した。

○平成17年5月11日：第一回学群教育計画・評価委員会が行われ、永井学群長より、平成17年度活動計画についての基本方針の説明があり、学生による授業評価を実施したい旨が表明され、実施の方向で検討を進めることになった。

○平成17年5月25日：学群運営委員会において、第一回教育計画・評価委員会で授業評価の実施を決定した旨を運営委員に説明した。審議の結果、今年度、体育専門学群の授業評価を実施することで、具体的な実施要項を教育計画・評価委員会において検討することが了承された。

○平成17年6月8日：第二回学群教育計画・評価委員会において、生物学類、体育センター、他大学の授業評価の実践例が紹介され、体育専門学群の具体的な実施要項については近藤教育課程委員長を中心に作成することになった。

○平成17年6月9日：授業評価票の作成にあ

たっては学生の意見を聞いてほしいという永井学群長の意向があり、酒井、古川学生担当教官に相談し、まず座長・副座長に体育専門学群における授業評価について話題提供した。

○平成17年6月15日：近藤(教育課程委員長)、長谷川(体育科教育：渡豪中のためメールでの情報提供)、古川(教育課程・学生担当教官)によるワークを結成し、今後の手順を確認した。まず、近藤が、国内外の大学における事例を参考に原案を作成し、次に学群座長、副座長らと懇談し、最終的なワーク案を教育計画・評価委員会に諮問することが決定された。

○平成17年6月17日：冒頭の「平成17年度全学授業評価の実施について(通知)」が教育担当副学長より出され、各専門学群・学類における専門科目・専門基礎科目の授業評価を実施するよう依頼があった。

○平成17年9月1日：第三回学群教育計画・評価委員会において、次項の体育専門学群の授業評価実施要項(案)が承認され、教員会議に諮られることになった。

○平成17年9月28日：体育専門学群教員会議において、授業評価実施要項(案)について説明があり、原案が承認された。

○平成17年10月26日：体育専門学群生に対する授業評価実施の通知を掲示した(資料1)。

○平成17年11月7日から25日：授業評価実施期間(資料2：授業評価の調査票)

○平成17年12月2日：体育専門学群教員会議において、全体の授業評価結果(速報)を報告した。

○平成17年12月6日：体育専門学群第二回クラス代表者会議において、授業評価結果(速報)を報告した。

○平成17年12月14日：各授業評価結果を体育専門学群長および当該教員に通知した。

2. 授業評価実施要項

平成17年度の体育専門学群授業評価は、以下

の実施要項に基づいて行われた。

1)目的：体育専門学群の授業を改善するために、学生による授業評価を行う。本年度は、特に受講生が多い講義科目(専門基礎科目)を対象に2学期に実施することによって、平成18年度に改善された点(例：シラバスの改訂、教室環境の改善など)が学生に実感できることを目的とする。

2)対象科目：専門基礎科目・専門科目として開講されている科目で、原則として、平成16年度の受講生が100名以上の科目を基準に、以下の対象授業科目を選定した。(表1)

3)設問項目：設問は、以下のように、学生の自己評価と教員の授業評価に分けられ、Ⅲには自由記述枠を設けた。資料2の調査票も参照のこと。

I 学生の自己評価

①出・欠席

全部出席 5 4 3 2 1 ほとんど出席していない

②シラバス

全部読んだ 5 4 3 2 1 全く読まなかった

③授業への取り組み

非常に積極的 5 4 3 2 1 非常に消極的

④内容理解度

非常に良く理解 5 4 3 2 1 ほとんど理解できない

II 授業評価

⑤授業の計画性、工夫、準備、シラバスとの整合性

非常に理想的 5 4 3 2 1 相当改善の余地

⑥教員の意欲

非常に意欲的 5 4 3 2 1 非常に消極的

⑦教え方、説明の明確さ

非常に明確 5 4 3 2 1 非常に曖昧

⑧学習環境(人数・教室規模など)

適正 5 4 3 2 1 相当改善の余地

⑨総合的な満足度

表1 授業評価対象科目一覧

平成17年度第2学期 体育専門学群授業評価対象科目

<1年次>

科目番号	授業科目	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限
W840201	生理学	2	1	12	月4
W820301	体育・スポーツ史	2	1	23	火2
W810201	体育科学入門Ⅱ	2	1	2	月3・木1
W820101	体育・スポーツ哲学	2	1	2	火3・水3
W830401	球技運動方法論	1	1	2	金4
W830321	個人運動方法論Ⅱ(体操競技・陸上競技)	1	1	2	火4

<2年次>

科目番号	授業科目	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限
W840801	スポーツ医学Ⅰ(救急看護法を含む)	2	2	2	火3・木4
W830101	運動学	2	2	12	木2
W840601	体力学(体力トレーニング論を含む)	2	2	2	月5・金4
W820201	特殊体育学	2	2	23	火4
W830201	コーチング原論	2	2	23	水3
W820401	武道論	2	2	23	木5
W820801	レジャー論	2	2	23	月4

<3年次>

科目番号	授業科目	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限
W850801	学校保健学(小児保健および精神保健を含む)	2	3	23	火1
W750901	スポーツ選手の栄養管理	1	3	2	木2
W750601	動きの解剖学	1	3	2	金2
W750801	スポーツタレント発掘論	1	3	2	火4
W750701	スポーツのバイオメカニクス	1	3	2	金3
W750201	運動質による動きの評価	1	3	2	月2
W540401	発達障害児と体育・スポーツ	1	3	2	月2
W541601	精神保健学	1	3	2	金2
W640501	地域スポーツ経営論	1	3	2	火4

資料1 授業評価の実施通知(学生用)

体育専門学生 諸君へ

平成17年度体育専門学群授業評価の実施について

平成17年度から体育専門学群の授業評価を実施することになりました。本年度は、専門科目、専門基礎科目の一部(別紙の授業科目)について、試行的に実施します。

実施期間は、平成17年11月7日(月)～21日(月)であり、各担当教官から実施日については指示があります。

授業というのは教員と学生とが協働してつくりあげるものであることは論を待ちません。よりよい授業には、教員と学生とが真摯に対話し、授業を改善していく必要があります。いたずらに非難、批判を行うことは、未来に向けたよりよい授業づくりの障害になることは間違いありません。学生諸君の良識に基づく「授業評価」を期待しています。

今回の授業評価の結果を受けて、次年度に向けた授業改善策を検討したいと考えています。なお、授業評価の実施にあたっては、担当教官が同席せず、TA(ティーチング・アシスタント)が、調査用紙を配布し、回収する方法となります。また、調査のデータ入力や分析、また「自由記述」については筆跡が特定されないように、外部委託の業者に依頼します。

学生諸君の自己評価も含めて、真摯な授業評価が実施できるように期待しています。

平成17年10月26日

体育専門学群長 永井 純

以下、実施授業科目一覧(省略)

非常に満足 5 4 3 2 1 非常に不満足

Ⅲ 自由記述 良かった点、改善が望ましい点

4)実施時期:平成17年11月7日(月)～25日(金)

5)調査の手順・調査票の集計:TAが授業評価の実務を行い、実施は授業の終わり20分間程度を使用して行う。評価実施中、教員は教室から退席し、TAが調査用紙の配布・説明・回収を行い、TAが記入済み調査票を事務へ持参する。回収された調査票は事務でとりまとめて入力業者に納入され、1週間で処理(個人、全体のデータ分析)する。

6)結果の分析:全体結果の分析はワークが行い、学外への公表は筑波大学体育科学系紀要、報告書などを通じて行うと共に、個々の授業評価結果に関しては、学群長と当該授業担当の教員へ知らせる。また、全体の調査結果は学群長が保管・管理する。

7)結果の利用および改善:個別の授業については当該教員が対応し、学群教育全体に関わる事

項に関しては、学群教育計画・評価委員会をはじめとする当該機関で対応する。

8)実施への周知・協力:9月の教員会議にて審議の上で、実施を決定すると共に、学生に周知する。

3. 授業評価の結果

表2がすべての授業の評価結果(ただし、評価対象科目と調査結果の番号は一致せずアトランダムに記載している)である。授業によっては、一人で担当する授業、複数が担当する授業、毎回教員が代わるオムニバス方式の授業などが混在しているので、慎重な考察が必要である。

設問項目への回答結果は、平均値(SD;最高値・最低値)で以下の通りであった。

まず、学生の自己評価についての4項目は、設問①:出・欠席、4.23 (0.27;4.62・3.31)、設問②:シラバス、2.05 (0.20,2.53・1.70)、設問③:授業への取り組み、3.47 (0.31;4.21・2.94)、設問④:内容理解度、3.35 (0.43;4.31・2.66)であった。

資料2 授業評価の調査票

平成17年度 体育専門学群の授業に関する調査

～調査の趣旨 教員各位：～
 この調査は、体育専門学群の授業を一層充実させ、授業の内容や方法を改善するために実施するものです。記入にあたっては、この授業科目全体を通して、自己評価と授業評価を行い、個人の責任と判断で回答して下さい。この調査が、あなたの成績に影響することは絶対にありません。

～記入の方法～
 質問項目のすべてについて、それぞれ該当する数字（5～1）を選び、右の に記入して下さい。また、自由記入欄では、建設的な意見があれば記入して下さい。

I 学生の自己評価

1) 出・欠席
 全部出席 5 4 3 2 1 ほとんど出席していない

2) シラバス
 全部読んだ 5 4 3 2 1 全く読まなかった

3) 授業への取り組み
 非常に積極的 5 4 3 2 1 非常に消極的

4) 内容理解度
 非常に良く理解 5 4 3 2 1 ほとんど理解できない

II 授業評価

5) 授業の計画性、工夫、準備、シラバスとの整合性
 非常に理想的 5 4 3 2 1 程度改善の余地

6) 教員の意欲
 非常に意欲的 5 4 3 2 1 非常に消極的

7) 教え方、説明の明確さ
 非常に明確 5 4 3 2 1 非常に曖昧

8) 学習環境（人数・教室規模など）
 満足 5 4 3 2 1 程度改善の余地

9) 総合的な満足度
 非常に満足 5 4 3 2 1 非常に不満足

自由記述
 この授業科目において、良かった点や改善が望ましい点について、事実に基づき建設的な意見や提案をして下さい。

次に教員への授業評価についての5項目は、設問⑤：授業の計画性、工夫、準備、シラバスとの整合性、3.25 (0.42；3.96・2.33)、設問⑥：教員の意欲、3.87 (0.55；4.62・2.71)、設問⑦：教え方、説明の明確さ、3.51 (0.57；4.46・2.30)、設問⑧：学習環境(人数・教室規模など)、3.42 (0.52；4.13・2.09)、設問⑨：総合的な満足度、3.44 (0.44；4.27・2.42)であった。

この結果の中から、学生の自己評価および授業評価に分け、特徴的な点だけをあげておく。なお、

この考察は、個別の授業科目ではなく、全体の統計結果から行い、紙面の都合上、学生の授業評価の最高値、最低値、教員への授業評価の最高値と最低値に着目する。

まず、学生の授業評価から最も注目すべきは、設問①の「出・欠席」状況について、全体の平均値が、4.23 (0.27；最高値4.62, 最低値3.31)となっている点である。本学では、学生の単位認定について、「学生の教育指導上における出席時間数の重要性に鑑み、単位等の認定は、原則として当該

表2 授業評価結果一覧

平成 17 年度体育専門学群授業評価結果

< 科目・設問別 平均評価 >

No.	合計平均	Q-1	Q-2	Q-3	Q-4	Q-5	Q-6	Q-7	Q-8	Q-9
1	3.76	4.17	2.13	3.98	3.88	3.56	4.58	3.96	3.77	3.83
2	3.85	4.16	2.43	3.94	3.94	3.91	4.62	4.19	3.32	4.13
3	3.70	4.11	2.36	3.61	3.89	3.53	4.25	3.92	3.69	3.94
4	3.31	4.03	2.15	3.35	3.22	3.09	3.40	3.40	3.78	3.33
5	3.76	3.85	2.08	3.45	3.65	3.75	4.51	4.46	4.10	4.00
6	3.24	4.05	2.11	3.20	2.90	3.16	3.54	3.21	3.70	3.28
7	3.49	3.85	2.53	3.46	3.44	3.31	3.55	3.50	4.13	3.63
8	3.33	3.31	2.01	3.10	3.30	3.24	3.93	3.83	3.71	3.57
9	3.58	4.32	2.15	3.77	3.65	3.51	3.76	3.59	3.74	3.75
10	3.48	4.56	1.96	3.61	3.58	3.55	4.42	3.83	2.32	3.50
11	3.63	4.55	1.93	3.75	3.40	3.51	4.51	3.82	3.49	3.74
12	3.69	4.34	2.04	3.69	3.93	3.85	4.61	4.44	2.46	3.79
13	3.88	4.62	1.99	4.06	4.03	3.88	4.33	4.02	3.95	4.04
14	3.08	4.48	1.73	3.17	2.85	2.87	3.41	2.88	3.27	3.04
15	4.04	4.52	2.02	4.21	4.31	3.96	4.54	4.39	4.10	4.27
16	3.43	4.11	2.28	3.42	3.30	3.26	3.99	3.63	3.49	3.41
17	3.23	4.36	2.03	3.25	2.87	2.90	4.11	3.29	3.14	3.12
18	3.29	4.26	2.06	3.37	3.31	3.02	3.32	3.30	3.64	3.31
19	3.19	4.25	1.95	3.20	2.66	2.89	4.17	2.73	3.84	3.03
20	2.73	4.45	1.71	2.94	2.70	2.33	2.71	2.30	3.02	2.42
21	3.23	4.50	1.82	3.10	3.13	3.07	3.50	3.20	3.61	3.16
22	2.99	4.54	1.70	3.23	2.95	2.61	2.87	2.65	3.48	2.86
23	3.06	4.04	2.03	3.46	2.90	2.72	3.57	2.55	3.35	2.89
24	2.92	4.14	1.82	3.23	2.93	2.50	2.88	2.67	3.42	2.73
25	3.41	4.18	1.98	3.52	3.30	3.30	3.84	3.65	3.40	3.47
26	3.36	4.31	2.06	3.55	3.29	3.23	3.59	3.53	3.18	3.47
27	3.21	4.19	1.96	3.25	3.16	3.30	3.71	3.51	2.53	3.27
28	3.24	4.10	2.26	3.18	3.30	3.21	4.05	3.70	2.09	3.26
平均値	3.40	4.23	2.05	3.47	3.35	3.25	3.87	3.51	3.42	3.44
SD	0.31	0.27	0.20	0.31	0.43	0.42	0.55	0.57	0.52	0.44
最大値	4.04	4.62	2.53	4.21	4.31	3.96	4.62	4.46	4.13	4.27
最小値	2.73	3.31	1.70	2.94	2.66	2.33	2.71	2.30	2.09	2.42

授業科目の出席時間数が3分の2以上の者について行う」との規程があることが、高い平均値となったと推定される。

次に、設問②の「シラバス」について、平均値が、2.05 (0.20；最高値2.53、最低値1.70)となっている点である。体育専門学群では毎年シラバスを作成して学生に配布しているが、それがほとんど読まれず、活用されていない点は問題としてあげられるだろう。シラバスには、学習目標、参考図書、評価法、毎回の授業計画が記載されているだけでなく、担当教員の研究室や電話番号、さらにはオフィスアワーも明記されている。学生の授業理解や教官との交流には欠かせない情報源である。このシラバスの有効活用については、教

育課程委員会や学生との協議を重ねて、その改善策を講じる必要があるだろう。

他方、教員の授業評価で最も高い点は、設問⑥の「教員の意欲」について、平均値が、3.87 (0.55；最高値4.62、最低値2.71)となっている点である。事前に授業評価を実施する旨の共通理解があったことも起因しているかもしれないが、教員の意欲について、最も高い点数になったことは評価されるべきであろう。

逆に、最も低い評価点となったのは、設問⑧の「学習環境(人数・教室規模など)」の3.42 (0.52；4.13・2.09)の中の2.09(最低値)である。特に、自由記述欄の記載にも夏場の空調および受講者数と教室の容量との不一致に多くの不満がある。大型

授業の解消のための授業分割、大規模教室の活用なども検討すべきであろう。

調査対象授業全体のからの分析他に、設問⑨の「総合的な満足度」については、以下のような分析を行った。

それは、プラスの評価スケールである5および4を合計し、他方、マイナスの評価スケールである1と2を合計して、その差異を集計し、さらに、5+4の合計の割合の大きい順に、S(90%以上)、A(80%台)、B(70%台)、C(60%台)、D(50%台)、E(40%台)、F(30%台)、G(20%台)、H(20%未満)に分けた。その結果、S(1授業)、A(0授業)、B(5授業)、C(4授業)、D(4授業)、E(2授業)、F(6授業)、G(4授業)、H(2授業)と分類できた。

評価スケールの5+4のS、Bの授業の特徴をあげると、設問⑥の教師の意欲、設問⑦の教え方・説明の明確さ、設問⑧の学習環境が高く評価されていた。それらの高い評価が全体の授業満足度につながっていると推察される。

逆に、評価スケールのG、Hに関しては、設問⑥の教師の意欲、設問⑦の教え方・説明の明確さにマイナスの評価があり、これらの点が授業に対する満足度を低くしていると推察される。他にも、学習環境への評価が全体の授業満足度を低下させていると思われる授業があり、この点は、受講生に対する教室の規模や空調施設の充実が必要といえるだろう。

4. 今後の課題

平成17年度の体育専門学群の授業評価結果を受けて、いくつかの課題について述べる。まず、シラバスをどのように活用するかが課題となる。個々の授業において、第一時間目にオリエンテーション(授業全体計画、要項)が実施されているために、シラバスの活用がほとんどなされていない可能性はある。しかし、活用方法や記載内容の検討も含めて、教員と学生とが話し合う場を設定することが必要であろう。

第二に、学習環境、特に空調と教室の規模である。現在、体芸地区には、250名以上の受講生を収容できる教室がなく、250名を越える大型授業に関しては、他学群の教室を使用している状況である。しかし、他学群の授業などが優先されるために、教室の確保ができない場合がある。そうし

た場合は2クラスに授業を分けて行うことも必要になる。また、体育専門学群だけでは解決できないが、特に夏場の空調について改善が求められるだろう。

第三に、今回は2学期に開設した各学年の数科目(専門科目、専門基礎科目)の授業評価を実施したのであるが、1学期、3学期についても実施することが必要であるし、他にも専門語学、実技、実習・実験など、それぞれの授業の特性に応じた授業評価が必要であろう。また、全学の共通科目で実施されている「ツインズ」による授業評価方法についても検討すべきであろう。ツインズには情報処理の簡便さ、フィードバックの速さ、授業評価の結果を次の学期に生かせるといったメリットは捨てがたい。授業評価の方法についても検討が求められよう。

最後に、授業評価の結果をどのように活用するかについてのガイドラインを設ける必要があるだろう。すなわち、授業評価は評価を実施すること以上に、その結果を受けて、どのように授業改善に役立てるかが最も重要な問題である。今回の授業評価の実施にあたって、結果の公表については、事前に、個別授業担当者へのフィードバック(返却)と学群長の一括管理にとどめ、今後の授業改善にあたっては授業担当者自身にゆだねられていた。体育専門学群において、開学以来、初めて授業評価を実施できたことは高く評価できるのであるが、その結果をどのように質の高い授業改善につなげるかについて、具体的な活用方針は定まっていない。

大学によっては、授業評価結果を踏まえて、平均点(ある一定基準)に届かない授業に対して改善策を提出させるところや、授業評価の初年度は個人への通知にとどめ、次年度は学内への公表、更に三年目には学外への完全公開という年次計画で授業改善に取り組んでいるところもあるという。このような情勢から判断すれば、今や質の高い授業を目指した対応策を教員個人レベルにゆだねる時代ではなくなりつつある。近い将来は、学生だけではなく第三者評価を通じて授業改善への努力目標が設定されるであろうが、本来的には、第三者評価を待つまでもなく、教員自身、理想の授業にむけた改善策を追究する専門職倫理の発動が求められるであろう。